

# まんようしゅう 万葉集ってなあに？

「万葉集」は、現在日本に残っているもっとも古い歌の本（歌集）です。今からおよそ1300年前の奈良時代（710～794）の歌がたくさん載っています。この歌集をまとめたのが、大伴家持だといわれています。

「万葉集」に載っている歌は、「和歌」とよばれるもので、5・7・5・7・7の31の音からなる短歌や、5・7・5・7…をくりかえす長歌などがあります。

# たかおか まんようしゅう 高岡と万葉集のつながり

大伴家持は、746年に越中（今の富山県と石川県の能登半島）の国守（今の県知事のような役職）として、奈良の都から越中国の役所があった現在の富山県高岡市伏木にやってきました。

家持は5年間高岡に住み、その間、約220首の歌を「万葉集」に残しました。

家持の部下たちの歌を合わせると、越中で詠まれた歌が「万葉集」には約330首も残されています。

このことから、越中は日本の中でも有数の万葉の故地（ゆかりの土地）なのです。

※歌をつくることを、「歌を詠む」といいます。



もののふの 八十娘子らが 汲みまがふ 寺井の上の 堅香子の花

（万葉集 卷十九・四一四三 大伴家持の歌）

（もののふの）たくさんの少女たちが 入り乱れて水を汲んでいる寺井のほとりには 群がり咲いているかたかごの花。

高岡市の花・かたかご（カタクリ）  
かたかごは、今のカタクリのことで、雪がとけた早春の野山に咲く花です。  
大伴家持が、万葉集の中でただ一首、越中で詠んだことから、高岡市の花に制定されています。

# おねがい



高岡市万葉歴史館 1990年（平成2年）10月開館  
〒933-0116 富山県高岡市伏木一宮1-11-11  
TEL 0766-44-5511 FAX 0766-44-7335  
E-mail: manreki@office.city.takaoka.toyama.jp

■開館時間 4月～10月 午前9時～午後6時  
11月～3月 午前9時～午後5時  
（入館は45分前まで）

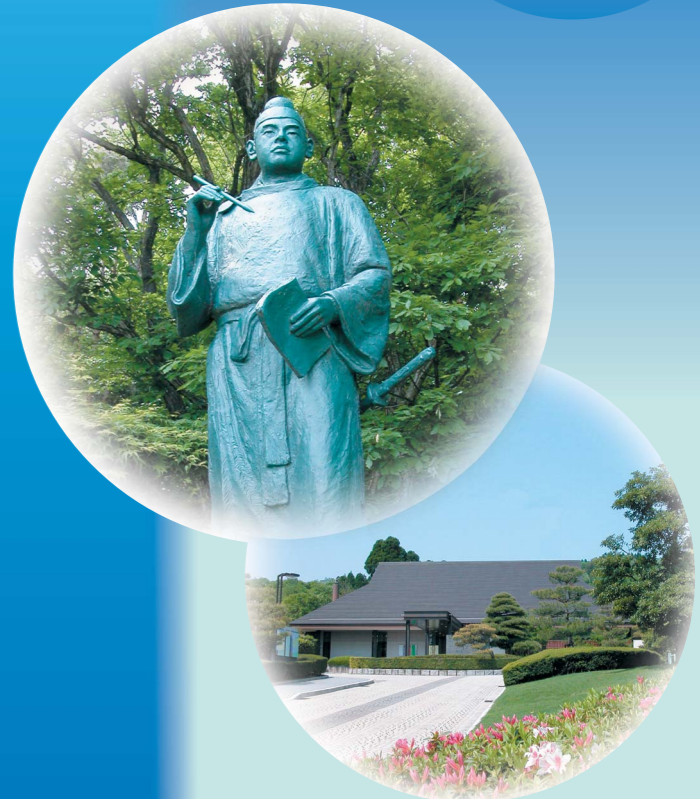
■休館日 毎週火曜日（祝日にあたる時はその翌日）  
年末年始（12月29日～1月3日）

■入館料 一般210円 中学生以下無料 65歳以上160円

■ホームページ www.manreki.com

なまえ 年 組

# たかおか し まんよう れき し かん 高岡市万葉歴史館

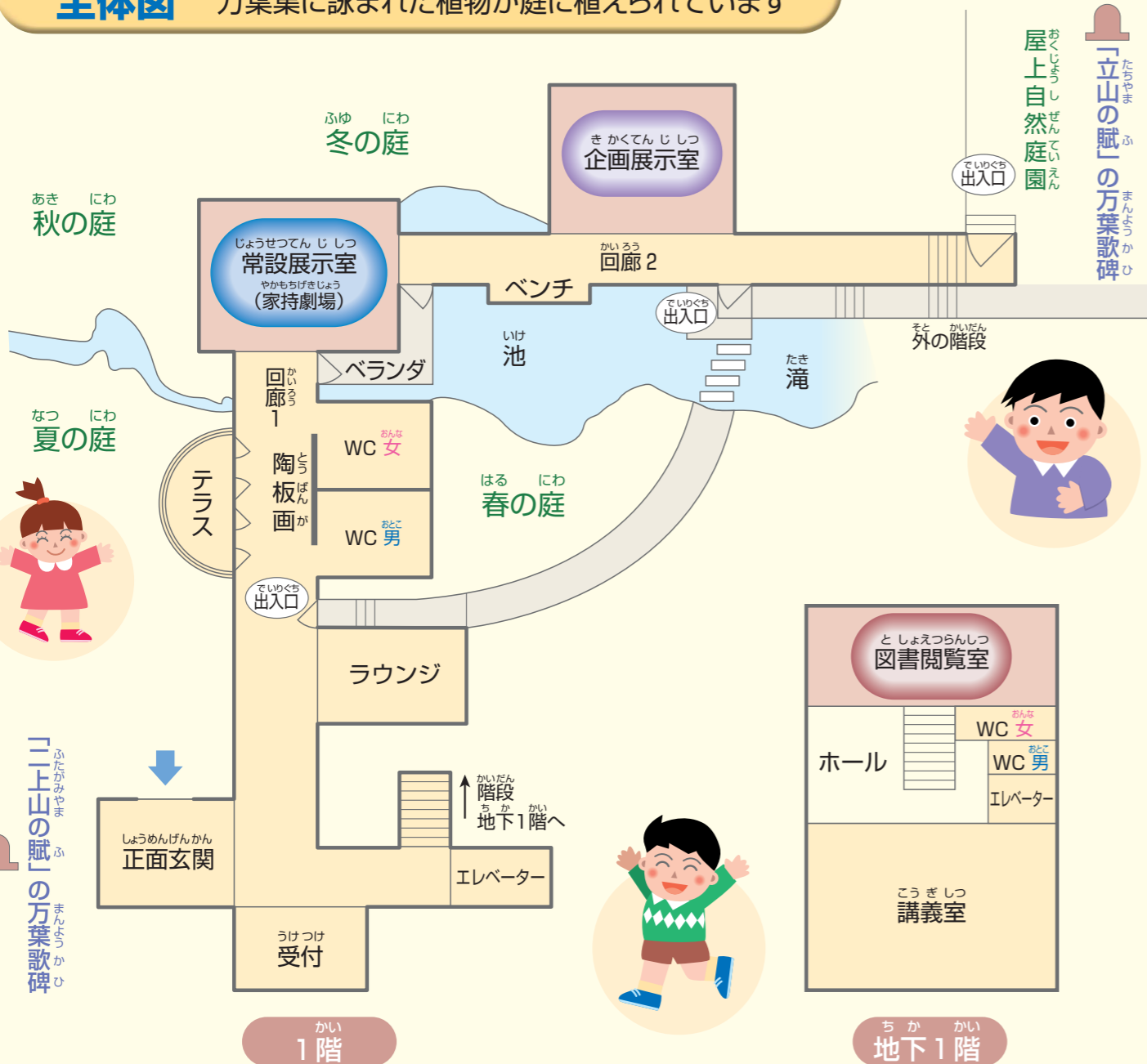


奈良時代、大伴家持は29歳で、国守（今でいう富山県知事）として越中にやってきました。その時の越中の国府（今でいう県庁）は、現在の富山県高岡市伏木に置かれていました。

（2007年5月作成）

# 全体図

まんようしゅう よ しよくぶつ にわ う  
万葉集に詠まれた植物が庭に植えられています



## 常設展示室

### ふるさとの万葉



おおものやかもち いっしょう  
大伴家持の一生をふりかえります。

※30分ごとに15分間上映



おおものやかもち よ うた  
大伴家持たちが詠んだ歌が季節ごとに音と映像で楽しめます。

## 企画展示室

- 古代の貴族の食事
- 古代の庶民の食事
- 木簡
- 古代の文房具
- 遣唐使船
- 太政官符
- 万葉集の古写本
- 展示パネル



古代の文房具



貴族の食事

## 四季の庭・屋上自然庭園

まんようしゅう よ しよくぶつ  
万葉集に詠まれた植物が約70種類植えられています。



## 図書閲覧室

まんようしゅう こだい しりょう ほん  
万葉集や古代についての資料や本があります。万葉集や奈良時代のことをもっと知りたい人は、図書閲覧室で調べてみましょう。



※図書閲覧室は無料で利用できます

## メモ

メモはエンピツでとろうね

